

# マライ民族統治の歸趨

向 井 梅 次

編輯言——本文は昭和十八年五月二十一日高岡高等商業學校研究會に於けるレポートであるが、速記は講演者の校訂を経て居る。

一

一口にマライと言つて居りますが、從來の統治機構は、大體三つに岐れて居ります。私達がマライで先づS・S・F・、M・S・、或はU・M・S・といふ略語に接して當初は甚だ當惑し、現地人に對して此は何の略語かと説明を求めたのであります。其の後屢々、左様な略語に接して居りますと、却つて此の方が板に付いて來て了ひ、ストレーツ・セトルメント或はフデレーテッド、マレイ・ステーツと言ふ、長たらしい云ひ方には却つて辟易し、略語の方を貴ぶといふ風になつたのであります。それでマライの統治機構を熟知しない日本人には、略語を無暗に最初から使用しない様にと現地人に對して注意をしたのであります。

尠くともマライは、舊海峽植民地と馬來諸州とに分ける事が必要であつたのであります。即ちストレーツ・セトルメントとマレー・ステーツとであります。後者の馬來諸州は、九つの州から構成されて居ります。然るに皇軍がマライを席捲し、シンガポールを昭南と改め、此處を帝國の國防據點として、マライに新政を施行するやうになつてから、從來

の統治機構は之を一擲し、舊海峽植民地及び馬來諸州を一つの施政單位として統治し始めて居るのであります。舊シンガポール、ピナン及びマラッカの三セツトルメントと、馬來半島の九つの州を、夫々糾合しまして一つの傘下に納め、統一ある施政を實行しやうといふ、英吉利年來の抱負は、皇軍によつて一遽に解決實現せられた次第であります。

舊海峽植民地と馬來諸州とは、其の統治形式を異にして居ります。舊海峽植民地は英吉利の直轄植民地、クラウン・コロニーであり、馬來諸州は英吉利の保護領、プロテクトテッド・ステーツであつたのであります。直轄領には、土侯即ちサルタンといふものがなく、言語も公式には殆ど英語をやつて居る。然るに馬來諸州には舊來のサルタンが居り名目的ではあります。サルタンが之等諸州の統治者であり、住民は英吉利保護國の人民として扱はれて居つたのであります。此の様に統治事情が煩瑣でありますからして、施政の能率の上から申しますれば、之を一つの施政單位に纏めるといふ事は當然必要であります。英吉利は諸般の事情からして、かやうな複雑極まる統治機構を維持して居つた次第であります。其の爲、吾が國の文獻に就いて見ましても、マライ舊時の統治機構が解らない爲、或ひはシンガポール及び英領馬來と稱し、或ひは馬來總督などと俗稱したのであります。嚴格に申せば馬來總督は、舊海峽植民地總督兼馬來諸州統監、即ち馬來諸州に對してはハイ・コミッションナーの地位にあつたのであります。

さきに申上げましたやうに、マライの統治機構を吾が國に於て統一しましたことは當然ではあります。之から嘗ての複雑した統治機構は決して無意味ではないといふことを申上げ、これがマライの民族統治と如何なる關聯を有するかといふことに觸れて見たいと思ひます。

それに就て先づ、マライに於ける民族の状況を簡單に申し上げますと、總人口は約五百五十萬であります。其の四割を占めて居るのは支那人、他の四割はマライ人、殘餘はインド人七十萬、その他雜多の人種があります。従つてマライの民族と申せば、之を支那人、マライ人、インド人の三種に限つてもいいと思つて居ります。人に依りましたはマライの原住民として、マライ人のみであるといふやうに考へ、マライ民族對策はマライ人對策であるかの如く考へて居る人もありますが、私達の考へでは敵性を有する者に就ては別であります。インド人、支那人も等しく、マライの人的資源を構成して居り、また其の沿革から考へましても、マライ人もスマトラから移住し來つたものであります。左様な點からして、今後の民族統治を考へますに當りまして、何もマライの民族をマライ人本位にのみ考へる必要はなく、之等の民族をマライ全體の上から同一の線に置いて考へ、吾が新秩序に於ける其の意義を検討する必要があると思ひます。現在マライでは、支那人の數がマライ人を凌駕してをります。極く僅かではありますが、支那人がより多いのであります。之等支那人は一部分は農業、鑛業に關係して居りますが、マライの商業に於ける權利を把握して居りまして、都會に住んで居るものが多いのであります。従つてマライを短期間に通過する者は、都會を通過しますのみですから、如何にもマライでは支那人が多い様に考へ、田舎で靜かな生活を送つて居る多數のマライ人には接しないので、マライ人は少いと思ふといふ事實があります。極端な者は、英領馬來ではなく、華僑のマライであつたといふやうな言を吐きますが、事實は支那人とマライ人とは略ぼ同數であります。インド人は其の數から見ても之等二民族とは劣り、また其の七割までが勞働者であります。

其處で舊海峽植民地並びに九つの馬來諸州は人種の構成から見ますと、或は支那人的であり、或はマライ的である譯であります。古い統治機構について考へますれば、舊海峽植民地は寧ろ支那的であります。舊馬來諸州は、聯邦、フェ

デレーションを成した四州と、何等聯邦を成さなかつた五州、即ち聯邦州と非聯邦州とに分たれますが、舊馬來非聯邦州は寧ろマライ的であります。然るに舊馬來聯邦の四州は支那的でありますと同時に、マライ的であります。

舊馬來諸州の各州に於ては馬來人の土侯が居据わり、謂はば間接統治が行はれ、舊海峽植民地に於ける直接統治とは、形態を異にして居つた事は先刻申し上げました如くでありまして、馬來諸州にはもとの儘、サルタンが兎に角名義ながらも現存して居る次第であります——。此のサルタンに就て、大體現状維持政策が認められて居ります——。然るに舊海峽植民地に於きましては、支那人が壓倒的で、英本國同様に統治を行つて居つた次第であります。現に昭南の如き、人種的には國際的な様相を呈して居つたのでありますが何と申しまして、支那人の町であるといふ印象は争へないであります。

その司法制度から考へましても、海峽植民地であれば大體、以前では英語でよく意思が通ずるのであります。法令の條文も英語で起草され、英語で正式に公布されます。然るに馬來非聯邦州となりますと、法案は英語で起草し、舊英吉利人知事、ブリチッシュ・アドヴィザーが審議しまして、これをサルタンと協議し、その結果をマライ語で公布し、英語にも翻譯して居つたのであります。舊海峽植民地であれば、大體英國と變らない程度の法律でも理解出来るのであります。が、馬來諸州、殊に舊馬來非聯邦となりますと、堂々たる法律條文を制定しましても、マライ人には解らないから、簡単な序列的なものとならざるを得ない。従つて馬來諸州に施行せらるるものは、舊海峽植民地や舊馬來聯邦州のそれを簡約化したものを用ひて居つた状態であります。

支那人、印度人、マライ人は夫々、宗教を異にして居る次第でありますが、マライのサルタンは御承知の通り、これを一口に申せばマライ諸國の宗教王であります。宗教に就いての全權を認められたルーラーであります。統治の實權は、

舊馬來聯邦州ではブリティッシュ・レシデント、非聯邦州ではアドバイザーと稱せる英人知事が掌握して居つた次第であります。

### 三

斯様に舊統治機構が、海峽植民地、馬來聯邦の四州、並に非聯邦の五州より成立し、舊統治機構の三種類が其處に住んで居る民族と關聯して、其の間相當の懸隔があつた事を申上げたのでありますが、之をマライの産業に就いて、産業的側面から考へますと、三種の舊統治機構は各々、其の經濟政策を異にして居つたといふ事が云へるのであります。昭南、ピナン、マラツカは各々世界に名を知られた商港でありますから、之等を擁する海峽植民地は、貿易の中心地であり、兼ねて政治の中心地であります。馬來諸州の内ペラ、セランゴール、ネグリ・センビラン、パハンの四州は、所謂マライの特産である、錫及び護謨の産地であります。昭和十五年現在では、マライの錫及び護謨は、世界總産額の三割五分以上四割近くを占めて居つたのであります。之等の生産は、マライ一圓に互つて行はれるのではなく、もとの馬來聯邦州の四州に専ら産するのであります。でありますから産業的に申しますと、マライの中心は舊馬來聯邦州にあります。従つて舊聯邦州首都でありました、クアラ・ランプールは、マライ産業の中心であります。——この發音は人によつて違ひます。支那人はコーランボーと云つて居ります。日本人でもコーランボーと云ふ人があります。然し公文書では現在、クアラ・ランプールと申して居ります。向ふに居る人間はどう發言しますかと申しますと、私等の耳にした所ではクアラ・ランプールであります。従つて自然クアラ・ランプール化されたのであります。

嘗てペラ、セランゴール、ネグリ・センビラン、パハンの四州を擁してマライ産業の中樞でありました所のクアラ・ラ

ンブールは、今日では吾が施政は昭南が中心でありますからして、嘗て馬來聯邦州の首都であつたといふ名残りを留めるのみに過ぎないのであります。英國の統治下、總督なり或ひは民政長官、其の他數種の中央官廳は之をシンガポールに置いたのでありますが、農務局、水利局、鑛務局、鐵道局などといふ産業關係の官廳はシンガポールに置かず、クラ・ランブールに置いて居つたのであります。

舊馬來聯邦州はジョホールだけは性質が違ひますが、ケダ、パリス、ケラント、トレンガヌの四州は御承知の通り、もとは泰領であり、これには舊聯邦州のやうに何等見るべき産業はないのであります。たゞ稻作によつて其の存在理由をもつて居つたのであります。

此の度我が軍により敵前上陸の行はれた馬來半島東岸コタバル、ケラント州のコタバルへ参りますれば實に、萬頃の水田が続いて如何にもマライ的といふ感じが取れない。然るに舊馬來聯邦州クアラ・ランブールに這入ると、如何にも支那人的な町であるといふ印象をもつと云はれて居る次第であります。また、アメリカの研究者エマーソンの述べるところによりますと、英吉利の司政官中或る者は、舊馬來聯邦州に赴任する者にありましてはマライ人の福祉を考へ、其の爲之が對策をどうするかといふ事を先づ考慮するものがあると言つて居るのであります。

斯様に舊海峽植民地は政治及び貿易の中心、舊馬來聯邦州は錫及び護謨の國際商品の中心であり、マライ聯邦州は稻作を主とする國內的産業の中心であります。従つて一口にマライと言はれて居りまして、それが三様の經濟政策を採つて居る地域單位に分割されて居つた次第であります。従つて私達がマライの統治と産業との關聯を考へまして、今遽に之を一個の施政單位に統轄致しましても、之等の相異つた經濟政策が一朝にして其の面目を革められない限りは矢張、從來の統治機構の複雑を極めた所以に就て尙或る程度これを考慮し、舊時に於ける雜多な統治機構も決して無意味

ではなく、夫々別々の統治性をもつて居つたものであるといふ事を充分認識し、マライを眺める必要があると思ひます。

#### 四

最後にマライの華僑に就て一言附加さして頂きたいのであります。私達はマライでよく支那人が、私はマレー・ポーン或はストレーツ・ポーン（海峡植民地生れ）であると言つて、即ち蔣介石政権には關係がないのである事を高調し、我々に何かを訴へんとする者に度々出會つたのであります。大體これ迄の英吉利總督中にも某總督の如き、阿片を嗜んだとさへ言はれて居り、又英國の司政官で支那人と結婚したものも相當にありまして、英國は支那人最負であつた事は疑ひありませんが、マライは重慶政權援助で知られて居りましたから、支那人は自ら危惧の念に驅られる事大であつた次第であります。

支那人は政治に就いて勢力はないのであります。マライの商權を把握して居り、或は又、マライ開拓上必要な勞働力の供給者となつて居る状態であります。現在支那人中、マライで生れた者は三分の一以上二分の一以下と考へられて居り、之を俗に、ババと稱して居ります。私が今更申上げる迄もなく、彼等は實に自己依頼心の強い、そして愛想のいゝ人間であります。日本の司政官がマライで、之等の華僑に操られない様十分戒心を要する次第であります。此の華僑對策に就ては私達の度々口に致して來ました事であり、また吾が方の毅然たる民族對策に戻らないやう要心もして來たのであります。が、何時の間にか彼等の意圖が達せられて居るといふ事は少くなかつたのであります。然るに印度人、マライ人に至つては、少しも蔭日向なく、馬鹿正直と申してもいゝ程度であり、色々な要求をするに當つてもそれを申出るだけであり、支那人の様に巧妙婉曲な手段に訴へ、最後に自分の意思を貫徹するやうな仕方は行はないのであります。英吉

利人の書物に、マライの開拓は英吉利人のブレイン、頭腦と支那人社會、チャイニース・コミュニティの膏血とを以て成つたものであるといふふうに申して英華合作を禮讃して居ります。即ち政治は暫く之を措き經濟的にマライを考へます場合、英吉利人も支那人も我々にとつて、全く同一のものであります。私達が支那人といふ者は我々の經濟的敵手である、エコノミック・エネミーであると申しますと、華僑は顔色を變へるのでありますが然し其れは、華僑を決して蔑視するのではなく、華僑の實力を考へ、經濟建設上吾が強敵として豫め備ふるところあらんとするのであります。

吾が方の意圖の達成上彼等を利用し、華僑をして帝國に協力せしめる爲には、華僑に對する認識を誤らざる事が其の前提を成すのであります。然し例へばマライに於ける勞働力の供給に就て申しまして、マライ人は約數千人が、鑛山の苦力として働いて居りますのみであり、數から言つても問題ではありません。孜孜として勉勵すると云ふ點に至つては、先づ第一に支那人、これに次で印度人であります。護謨園の苦力となつて居るのは、南部印度タミール人であります。

今後のマライの建設に就ては、何と云つても經濟技術者として支那人を利用するといふ事は恐らく、異論のない所であると考へます。従つて支那人の斯かる勤勉さと伶俐さとを我々は買ひ、印度人、マライ人の正直さを買つて徐々に、從來分立して居つたマライ經濟政策の統一を期し、吾が國の新たな國防據點としてのマライ建設を完成すべきであると考へるのであります。

尙英吉利のとりました民族對策に就いて申し上げますと、彼等のスローガンは、マライに於ける三大民族は一つの坩堝に化した、メルチング・レーシヤール・ポットを現出して居ると稱する點にあつたのであります。支那人には支那人向きの役所を設けて之を統治し、印度人には印度人向きの役所を設けるといふやうに、分割統治政策、ディヴァイド・アンド・ルールを採り、強力且つ慎重なる政策を以て、民族對策に略ぼ成功を遂げたと見得るのであります。